

喫煙によりダメージを受けた検査値の回復—血中白血球数は禁煙で変化する—
○久米 晶子^{1,4}, 久米 敏文², 増田 和夫⁴, 渋谷 文則³, 山崎 浩史⁴(¹久米医院薬局, ²久米医院, ³東京警察病院薬剤部, ⁴昭和薬大)

【目的】喫煙は、肺癌、脳梗塞あるいは心筋梗塞などの要因であることから、世界で最も重要な公衆衛生上の問題のひとつとなっている。我々は、喫煙により血液臨床検査値が変化することを第128年会で報告した。そこで本研究では、禁煙指導を個別に推奨する材料とする目的のため、喫煙で異常値に近づいた、または異常値となった血液検査値が、禁煙によりどの様に変化するのか経時的に調査した。

【方法】2003年から2007年に久米医院で健康診査を受けた3,053名(喫煙者718名)の臨床血液検査値(血液成分、脂質およびグルコース)を解析した。

【結果・考察】喫煙者と非喫煙者とで比較した結果、血液成分の全てならびにトリグリセライド、HDL-コレステロールおよびLDL-コレステロールで有意な増加あるいは減少が見られた。男性喫煙者におけるトリグリセリド値と女性喫煙者の赤血球数の変化が顕著に観察された。ブリクマン指数(1日喫煙本数×喫煙年数)に基づき、喫煙者を群分けして調査した結果、ブリクマン指数400以上の群で血液成分とトリグリセライドに有意な変化が認められた。ブリクマン指数800の群ではHDL-コレステロールが、さらにブリクマン指数800以上の群ではLDL-コレステロールとグルコースに有意な変化が見られた。一方、禁煙者(38名、ニコチンパッチ使用による禁煙指導者を含む)について、禁煙後1年~3年間にわたり追跡調査したところ、いくつかの指標のうち、白血球数が禁煙年数とともに減少し、禁煙1年で有意差がみられた。以上の結果から、性別を問わず、白血球数は喫煙により増加し、禁煙することで減少するバイマーカーであることが判明した。各種疾病予防対策として禁煙を推奨する場合、個人の白血球数値をモニターしながら的確に助言することで、患者毎の個別対応が可能となることが示唆された。